

国会代表質問 「違ひ」見えぬ首相答弁

「丁寧な説明」とは、單に口頭を増やすものではない。厳しい質問とも真摯に向かい、お定まりの答弁で受け流すのではなく、情理を述べした内容を伴わねばならない。これでは、説明責任に対する姿勢も、政策の中身も、菅前首相や安倍元首相との違いは見えてしない。

岸田首相の所信表明演説に対する各党の代表質問が始まつた。衆院選前、首相の最初で最後の国会論戦である。質問1回答弁1回の一方通行だが、「丁寧な説明」を掲げる首相が、安倍・菅政権の反省のうえに、自らがめざす政治をどう語るかに注目したが、唐突しかった。

「新しい日本型資本主義」を看板とする首相は、「成長」の意義を忘れてはいられないが、従来より「分配」を重視しているのは明らかだ。しかし、「分配なくして成長なし」という立憲民主党の枝野幸男代表に対し

て強調したのは、アベノミクスの成果だった。

岸田政権の経済政策としてまず挙げた「大胆な金融政策、機動的な財政政策、成長戦略の推進」は、アベノミクスの「日本の矢そのもの。分配政策として総裁選で公約した金融所得課税の見直しは「選択肢のひとつ」に後退した。「民主党政権の失敗」から学んだように言ひありは、「悪夢」と決りつけて批判を繰り返した安倍氏の答弁を恩い起しさせる。

森友学園をめぐる公文書改ざんでは、「結論が出ている」といって再調査を否定。自民党が河井案里氏側に渡した1億5千万円の使途についても、党本部としてチェックする考えはないとした。日本学術会議の会員候補6人の任命拒否も「当時の首相が最終判断し、一連の手続きは終了した」と述べもなかった。

総裁選の際に語った「民主主義の危機」という認識は一体何だったのか。これでは政治への信頼回復はおぼつかない。

岸田首相の所信表明演説に対する各党の代表質問が始まつた。衆院選前、首相の最初で最後の国会論戦である。質問1回答弁1回の一方通行だが、「丁寧な説明」を掲げる首相が、安倍・菅政権の反省のうえに、自らがめざす政治をどう語るかに注目したが、唐突しかった。

「新しい日本型資本主義」を看板とする首相は、「成長」の意義を忘れてはいられないが、従来より「分配」を重視しているのは明らかだ。しかし、「分配なくして成長なし」という立憲民主党の枝野幸男代表に対し